



唐泉山を仰ぎみて

嬉野市立塩田中学校
「学校だより No.4」
令和8年7月9日
文責：校長 宮崎武司

学校教育目標「心豊かにともに伸びる」

～ 仲間とともに伸びる 教師とともに伸びる 保護者・地域とともに伸びる ～

6月27日（土）・28日（日）に鹿島嬉野藤津地区中学校総合体育大会（地区中体連）が開催されました。

大会前は雨天の日が続き、十分な練習時間を確保できなかった部活動もありました。しかし、大会当日、生徒たちはこれまでの練習の成果を発揮しようと、一人一人が全力でプレーしてくれました。勝敗に関わらず、仲間と声を掛け合いながら最後まで諦めずに競技に取り組む姿は大変頼もしく、感動を与えてくれました。生徒たちの真剣な表情やひたむきな姿から、元気をもらいました。

【学校運営協議会】

6月4日に第1回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会は年3回実施しており、今回は本年度の学校経営方針や学校評価の取組について説明し、委員の皆様からご意見をいただきました。

その中で、本校には現在「校訓」がないことから、今後塩田中学校らしい校訓の策定について検討を進めていくことをお伝えしました。しかし当日は十分な協議時間を確保することができなかったため、第2回の協議会で改めて委員の皆様からご意見を伺う予定です。また、校訓の策定にあたっては、保護者の皆さまのお考えも参考にしたいと考えております。後日、「校訓」に関するアンケートへのご協力をお願いする予定ですので、よろしくお願いいたします。生徒・保護者・地域・学校が共有できる、本校の目指す姿を表した校訓となるよう検討を進めてまいります。

〔校訓〕

- ・学校で、教育上の理念・目標を成文化したもの
- ・人間形成にあたってとりわけ大切にしたい教育理念や教養を成文化し、学校生活の指針としたもの
- ・学校で大切にしたい考え方や行動の規範、守るべき心の持ち方や価値観

【高校説明会】

毎年6月に3年生を対象とした高校説明会を実施しています。今年度は6月12日に私立高校（北陵、佐賀清和、佐賀女子、敬徳、龍谷、佐賀学園）、6月25日に県立高校（嬉野、白石、佐賀農業、鹿島）から先生方にお越しいただき、それぞれの学校の特色や学習内容、学校生活などについて説明していただきました。

中学校卒業後の進路選択は、生徒にとって大きな節目となります。夏休みには各高校で体験入学も実施されます。自分は今後どのようなことに挑戦したいのか、何を学びたいのかをじっくり考えるいい機会にしたいと思います。希望する進路の実現に向けて、今の自分に必要なことは何か、これから努力すべきことは何かをしっかりと見つめ、日々の学習や生活に取り組んでほしいと願っています。



【スマホの利用と脳に与える影響】

夏休みまで残り僅かとなりました。夏休みは子どもたちにとって生活のリズムが変わり、自由に使える時間が増える時期です。PTA 総会や新入生説明会（R7 年 12 月実施）においても、スマートフォンの利用が脳に影響を与えることについてお話ししました。利用時間が長くなることで、学習や睡眠に影響が出ることも心配されます。今回、この内容に関連する新聞記事を紹介します。夏休みを迎える前に、ご家庭でスマートフォンやタブレット等の利用・ルールについて、お子様と話し合う機会を設けていただければと思います。



論 の 芽

脳科学者
榊浩平さんに聞く

ついついスマホ… 脳にどんな影響が？

オーストラリア政府はついに16歳未満のSNS規制に乗り出しました。多くの弊害があるとは知りつつ、わかっちゃいるけど手放せないスマホ。「スマホはどこまで脳を壊すか」の著者で脳科学者の榊浩平さん（東北大助教）に、とても怖い話を聞きました。

スマホが最も悪い影響を与えるのは、人間らしさの根幹とも言える脳の前頭前野です。

前頭前野は、考える、理解するといった子どもたちが勉強で使う働きや、人とのコミュニケーション、感情の制御などに大きくかかわっています。

これまでの研究で、スマホを使う時間が長い子は勉強時間や睡眠時間とは関係なく学力が下がることや、脳の幅広い領域がほとんど発達しないことなどがわかってきました。

脳は本来ひとつのことにしか集中できないので、スマホの多機能性が悪影響を及ぼし、海外の研究では、現代の人間の集中力は「金魚以下」という結果も出ています。

何かを調べる際も、紙の辞書を使うかスマホで見るかで、前頭前野の動きがまったく違います。ものごとを記憶にとどめて思い出すというのは、とても労力を使う作業で、それをスマホがやってくれるなら任せよう、と脳は判断するのです。

目的は、情報を得ることなのか、学習することなのか。それを見極め、辞書とスマホを使い分けることが大切です。

親はこれらのリスクをわかった上で、子どもにスマホを与えないと無責任です。

脳は使えば育ち、使わなければどんどんダ

メになっていきます。活性化させるには読書（特に音読）や、他人とのコミュニケーション、適度な運動が有効です。私たちはスマホに使われるのではなく、何のために使うのか、目的を明確にする必要があります。

とりわけ子どもたちには、1日の使用時間など自分でルールを作らせ、それを守らせることが大切です。本来であれば、オーストラリアのような規制も議論すべきでしょう。

「主人はワシ」心に誓う

先日、スマホを忘れて外出し、それを早く知らせなければとスマホを捜した自分がいました。榊さんの指摘は思い当たるふし満載で、とりわけ集中力低下の主犯は、この電子機器に違いないと決めつけています。ただ、いったん便利さを知ってしまった以上、手放すことは困難。スマホに振り回されず、「主人はワシだ」の上から目線であたろうと心に誓いました。（箱田哲也）

◆ご意見をメール(opinion@asahi.com)またはX(旧ツイッター)の「#論の芽」でご投稿下さい。



【朝日新聞(2024 年12月4日)記事】

脳のために有効な対策として、脳科学者 榊浩平さんは次の三つを挙げられています。

ひとつは読書ですね。とりわけ音読が脳にいいです。

次にコミュニケーションですね。とくに、人に実際に会ったの対面でのコミュニケーションで脳は活性化されていきます。

三つ目は運動ですね。体だけではなく脳にも運動は大切なのです。

最後に大事なことは、スマホに使われるのではなく、しっかりと目的をもつことです。子どもの場合は、自分で作ったルールを自分で守る。親や先生が作ったルールを守るのではなく、1日の使用時間とか、寝る前はやらないとか、自分でルールを作ってそれを守ることが大切です。